

#編集後記 不確実性の時代だからこそ

表紙の写真は、一年生を真ん中に守りながらの集団登校。
昨年のものですが、こんな情景を早くまた見たいものです。

子どもたちにはノビシロしかありません。これからいっぱい学んで、個性が磨かれていくのでしょうか。
さてノビシロも少なくなってきた僕の話。論語に「**四十にして惑わず**」とありますが、
五十の半ばを過ぎた今でも何かと惑ってばかりいるような気がします。(+_+)



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



先日、日本郵便がドローンを用いた郵便物の配送テストを実施したという報道がありました。
深刻なドライバー不足を解決するとともに、迅速な配送業務が期待されています。
ドローンによる配送業務は、いずれ他の宅配サービスにも広がっていくそうです。
そうなれば宅配ピザなんかも今より早く届けてくれるかもしれません。素晴らしい！
でも、待てよー。

ピザを運ぶドローンをカラスが狙うかも。追いかけてきたカラスの集団が我が家に襲来するかも。(;>_<)

家電量販店で、展示された4Kとか8Kとかいう大画面の高画質テレビを見ました。

感動的なまでに美しいですね。素晴らしい！(^)/

でも、待てよー。

こんなテレビでバラエティやドラマを観たら、今まで気づかなかった俳優のシワやタレントのカツラと思しき頭皮の不自然な継ぎ目に気づいてしまいそう。そうすると番組の内容なんか入ってこないかも。(;>_<)

さる3月19日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、米務省はアメリカ国民に海外渡航の中止を勧告しました。同日、大阪府知事は連休中の大阪一兵庫間の不要不急の往来自粛の要請をしました。

想定外の事態。当たり前だったことが当たり前ではなくなっています。

「**不確実性の時代**」という言葉があります。

「不確実性」は「リスク」とは全く別です。

「リスク」は何らかの形でそれが起こる確率を具体的に想定できる事象のこと。

「不確実性」とはそうしたことが全くできない事象です。

前述のドローンや高画質テレビに関するアホな僕の妄想は「リスク」、未知のウィルスの感染拡大を食い止める為に往来を遮断するという大阪府知事の判断は、「不確実性」に基づくものといっているかもしれません。

感染の抑制と経済活動はいわばトレードオフの関係。

未知のウィルスという「不確実性」に直面している今、その両立はとても難しい問題です。

政府も都道府県もそして企業も、かつて無いような厳しい選択を迫られています。

人生は選択の連続。

誰にでも、時に明らかな正解がない中でも、自分で何れかの道を選ばなければいけない局面があります。

だからこそ、そんな時に選択肢を少しでも増やしておくためにも、僕らは学び続けなければならない。

上に立つ者は、後進に、部下に、子どもたちに学ぶ機会を与えなければならないと思うのです。

渋沢栄一は著書「**論語とソロバン**」において、「**自分を磨くことはどこまで続ければいいかというところ**、

もうこれは際限がない」と生涯学び続けることの大切さをうたっています。

僕も、その一点においては惑わずに、自分を磨いていこうと思います。

そして、この不確実性の時代に苦悩されている皆さんのお役に立てればと、思いを新たにしています。

